平成 22 年 8 月 24 日発行

よみがえる小竹貝塚縄文人展

小竹貝塚は、富山市呉羽町北地内にあり、呉羽丘陵北端に広がる台地の北西側山裾（やますそ）から平野にかけて位置する縄文時代前期（約 6,000～5,000 年前）を中心とする貝塚遺跡です。標高は 4m です。

平成 20 年 10 月、富山市埋蔵文化財センターでは、新鍛治川（しんかじかわ）改修工事に伴い小竹貝塚の調査を行い、2 体の人骨を発掘しました。

小竹貝塚の調査位置図

１号人骨（頭骨）・２号人骨（抱石葬（だきいしそう））です。平成 21 年度に、貝層土壌を洗浄していた時に、３号人骨（頭骨の一部）を発見しました。全ての人骨は、国立科学博物館人類研究部の研究協力により、人骨の復元・分析を行っています。

●小竹貝塚１号人骨の復元

国立科学博物館での復元・分析の結果、小竹貝塚１号人骨は、縄文時代の人骨として顔が復元できた、富山県で初めての確実な出土例です。そのため、今後の研究等のため、精巧なレプリカを作製しました。

１号人骨出土状況

復元した小竹貝塚１号人骨頭骨の大きさは、頭骨最大長（頭の前後径）＝165mm、頭骨最大幅（頭の横幅）＝137mm、顔高（鼻の付け根から下顎（したあご）の下端まで）＝約 105mm を測ります。

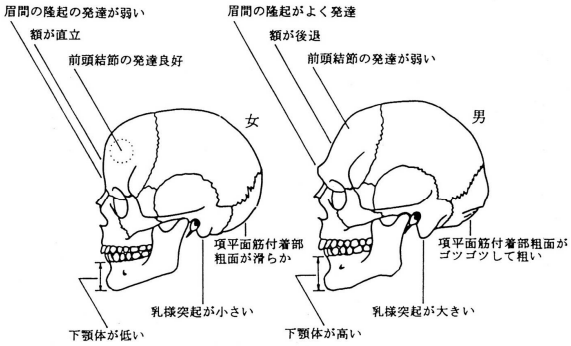
復元した小竹貝塚１号人骨とその計測データ

●男女の見分け方（頭骨編）

一般的には、人骨から男女の性別を判定する場合、骨盤を形成する寛骨が残っていれば、ほぼ100%判定できると言われていますが、頭だけでも重点的に観察すれば90%以上判定できます。

その判別するために重点的に観察する箇所は以下のとおりです。

	女	男
額の状態	直立	後退
眉間の隆起の発達	弱	強
前頭結節の発達	強	弱
乳様突起	小	大
項平面筋付着部粗面	弱	強



女性の頭蓋と男性の頭蓋の特徴。
（溝口優司　2000『頭蓋の形態変異』勉誠出版より抜粋）

小竹貝塚１号人骨の特徴は、「額が直立」「眉間の隆起の発達が弱い」など、女性の頭蓋の特徴を示しており、【女性】と判定されました。また、歯の磨り減り具合などから【成人】とおおよそ判定されました。（国立科学博物館による）

●今後の分析予定

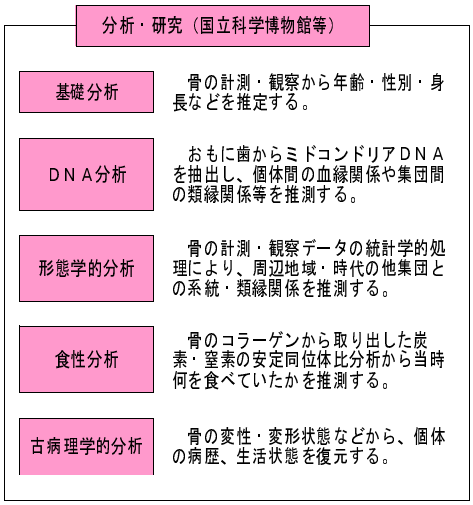
・基礎分析として、１号人骨（頭骨）はより詳細な観察を行い、正確な年齢を推定する。
ほぼ全体骨格が残る２号人骨（現在復元中）は、今後計測や観察から身長や年齢を推定する。

・ＤＮＡ分析では、１号人骨と２号人骨の血縁関係等がないかを分析する。

・形態学的分析では、得られたデータを周辺地域や同時期の縄文人と比較検討することで、類縁関係などを推定する。

・食性分析では、骨のコラーゲンから取り出した炭素や窒素の安定同位体分析により、当時何を食べていたかを推定する。

・古病理学分析では、個々の病歴や生活状態を復元する。



これら個々のデータを総合的に分析することで、小竹貝塚縄文人が他地域とどのような繋がりを持ち、どのような生活を送っていたのか等が判明し、縄文時代前期における呉羽丘陵縁辺部の縄文人の生活実態、及び日本の前期縄文人の全体像の解明に大きく寄与することができると考えます。